

Take action!

きっかけをつかんで、未来へと一歩踏み出そう!

このコーナーは、「やりたいことが見つからない」と悩んでいる高校生へのエール。
ふとしたきっかけから、自分のやりたいこと=未来を見つけた高校生たちのストーリーをご紹介します。

Action 01

高橋和太郎さん 東京・成城学園高等学校2年

ゲームアプリのプログラミングとの出会い

ゲームはずっとやる側でした
作る側になるとは思わなかった

今回の主人公は、現在 App Store で無料ダウンロードできるゲームアプリを開発した高橋和太郎さん。“アプリを開発する高校生”と聞くと、よほどコンピュータに詳しいのでは…と思うが、高橋さんは「ゲームは、やる側でした。プログラミングなんて、見ただけで嫌になる英語が出てきて(笑)、自分が作る側になるなんて思ってもいなくて」と言う。

そんな高橋さんが変わったのは、高校1年生の夏休み。友達に誘われて、『Life is Tech!』というIT教育プログラムに参加したことが、すべての始まりだった。

自分の思った通りに動いた瞬間、
その達成感に夢中になりました

高橋さんが参加した『Life is Tech!』とは、ICT (Information and Communication

Technology) の知識やスキルを現役大学生メンター (インストラクター) から学べる、実践型プログラム。ここでプログラミングに初挑戦した彼は、たちまちそのとりこに…。そしてわずか5日間でiPhoneアプリ、『Tap on Number』を完成させた。

プログラミングの魅力を、高橋さんはこう表現する。「実機に入れて、自分の思った通りに動いた瞬間、すごい達成感を感じるんです」と。プログラミングは、ほんの少しコードが違うだけでもうまく作動しない。けれど、その小さな違いを自分で解決し、組み直したプログラミングが、まさに自分の思い通りに動く。その達成感に高橋さんは夢中になった。

以前は漠然としていた進路。
いまは明確な目標ができた

「以前は進路について、漠然と“理系”としか考えていなかったんですが、いまやっていることをそのまま生かしていけるよ

うに、と進路を考えるようになりました」と高橋さん。現在の進路志望は、情報系の学部がある大学。『Life is Tech!』の先生や先輩から、どの大学にどんな設備があり、どんな研究ができるかといった具体的な情報を聞けるため、志望校もすでに固まりつつあるという。

「今後は、もともとあるゲームをよくするより、自分にしかできないものを一から作りたい」と高橋さん。これから彼が作り出すアプリは、彼自身の未来を変えていくのかもしれない。



「友達に誘われて」参加してみたITプログラム。共通の趣味を通じて、交友関係も劇的に広がった



大学生で経営者の鶴田浩之さんという先輩や、やりたいことを見つけた高校生の話を読んでみたい人は、こちらをチェック!

<http://shingakunet.com/rnet/action>